

# 父と遍路と地域づくり

## 四国遍路との関わり

寒さも少し和らいできた如月に父が逝った。享年91歳で人が羨むほどの大往生であった。ここ数年は入退院を繰り返しながら、家族の反対を押し切って軽トラに乗り、最後の入院の前日まで毎日のように笑いながら畑に行き、大好きであった百姓を続けていたものであった。

一昨年度より私は、「へんろ道沿いの名勝調査事業」に関わっており、数多くのお遍路さんやその周囲の人

に出会う機会があった。大師堂で一心不乱に読経する人、真夏の強い日差しや土砂降りの中を黙々と歩く人、その歩き遍路を助ける活動に生きがいを感じている人、へんろ道の世界遺産化を目指し地道に活動している人、どの方も私には何か眩しく見えて、当初は別世界の人のように感じていたものであった。



明浜のみかん皮むき選手権で準決勝進出

それが、いつの間にか四国八十八ヶ所の札所はもとより、金山出石寺や西山興隆寺などの別格霊場あるいは網掛石や八塚などの番外霊場まで、どこを訪れても躰や精神が癒されるとともに雑念が削ぎ落とされる思いが生まれてきた。そして、札所に出向く機会を重ねることに、入退院により父の容姿が少しずつしぼんでいくにつれて、自分の感覚が少しずつ変わっていくのを覚えていた。何の興味も無かった四国八十八ヶ所遍路巡礼に少しずつ惹かれ、道行くお遍路さんの姿を目で追うようになっていったのである。

きつと数年後には、菅笠をかぶり金剛杖をつきながら、黙々とへんろ道を歩いているに違いない。

## 地域づくり人との関わり

一昨年度の「地域づくり人研修交流会」を企画し、参加していただけた地域づくり団体の候補を書き上げていた時にショックを受けたこと。それは、ECP R



愛媛県信用農業協同組合連合会

中矢 具裕



双海の人間牧場で若松さんを囲んで

先輩K研究員の一言だった。「中矢さん以外の研究員は、限られた地域の団体としかわり合いがなく、あまり多くの地域づくり団体のことを知らないんですよ」と。確かに私はアシスト助成事業や舞たうんを担当し、地域の団体と顔を合わせる機会は多かったけれど・・・啞然。  
えひめ地域政策研究センターは2〜3年で研究員が総替わりとなるため、せっかく知り合えた地域の方々ともそこで途切れて



しまい、新任はまた一からの関係づくりとなっていた。この問題を少しでも解決すべく所長提案により、今春の異動から人との繋がりを重視した引き継ぎとなった。前任者の財産をうまく活かすことで、今後はこの弱点をなんとか克服し、より広くより深いコミュニケーションが実現可能となるであろうことを期待している。

### お世話になった方々

地域で活躍する皆さんの地域づくりに対する熱い思いに引っぱられて、本当にあっという間の2年間であった。

センターの上司や同僚はもとより、就任

当初の「地域づくりとは」の教えから始まり、終始お世話になりっぱなしであった双海の若松さんや、その手法の達人でかつ教え上手であった愛大の前田先生。舞たうんの表紙絵で、毎回ふるさとを輝かせた柳原さん。ふくしまキッズのすばらしい活動を支えている桜井の青野さん。豊富な知識と大きな人望で玉川を引っ張っている井出さん。新しい発想力とパワーで明浜を照らす西村夫妻。強力なリーダーシップで新居浜の子供たちを育てる小野さん。

金融機関出身の私には、利益を求めず「地域のため」「弱者のため」「みんなのため」に汗をかく方々の姿に何か違和感を覚えていたのだが、人に無理やりやらされている訳でもなく、笑顔で活動している多くのリーダー達との触れ合いの中で、次第に溶け込み楽しんでいく自分がそこにいたのである。

数え上げるとキリがないほど多くの方々にお世話になってきたが、特別記憶に残っているのは、Mr.近代化遺産の岡崎さんである。舞たうんのレギュラーコーナー執筆時における飽くなき拘りや、近代化遺産を巡るまち歩きツアーに同行した時などに耳にした遺産の危機を見てつい出てしまう氏のボヤキに、氏の生き方や産業遺産に対する熱い思いを感じ、同時に感銘を受けたものであった。

### 唯一無二のセンターへ

行政の貴重なシンクタンクたるセンターであり続けること、地域づくりの専門家

集めた研究機関であり続けることは、言葉で言うほど簡単なことでは無いかも知れない。しかし、常にそこを目指し歩み続けるのと、そうでないのはセンターの未来に大きな違いとなって現れると思う。その第一歩として昨年W研究員を中心に取り組んだ、「過去の調査分析結果」や参考文献の整理は大きな意味を持ち、今後の研究員の貴重な財産となるであろう。

地域づくりの活性化が求められるこの時代に、唯一無二の存在であり続けるセンターのご活躍に期待している。



新居浜のボランティアサークルMAYの晴れ姿